



◇急激な省エネルギー住宅の普及◇

「家は性能」とのキャッチコピーを全面に掲げて、大手ハウスメーカーである一条工務店は、大幅に受注を伸ばし、勢いは住宅業界を脅かしています。

断熱仕様を見てみても、これまで多く見受けられた「見せかけだけの性能」ではなく、相当にレベルの高い性能の住宅を供給していることが分かります。

「性能の高い家は売れる」と判断した住宅業界の一部は、高断熱化を急速に進めるようになっていきます。

自然環境問題、エネルギー問題、人口減少による家余りの現状を考えると、大手ハウスメーカーや、大手ビルダーが断熱住宅を供給することは必然です。

一方で、家に断熱性能を持たせることで発生する課題も多いのです。

◇本当に性能は出ているのか◇

2020年の建築物省エネ法義務化が刻々と迫っています。国土交通省主催の「住宅省エネルギー技術」を教える講習会が日本全国で開催されています。

この講習会は、住宅建築の関係者は受ける義務があり、ファース本部の研究開発室スタッフに促され、自社大工さんも受講しました。

講習会では、様々な断熱や気密施工の要点事項を学びます。「そのような施工が本当に可能なのか?」「まともにやったら工賃が跳ね上がるのではないか?」と疑問に思うと同時に、施工技術と施工時間の必要な内容です。

受講した大工さんに感想を聞くと、「ファースの家の断熱・気密の素晴らしさが分かった」という声が多くありました。

大工さんの仕事は、丈夫で美しい収まりの家を工程通りに、予算内で納めることが重要だと考えます。グラスウールなどの断熱材を正確に入れる作業や、気密を図るため、ポリフィルムの張り方に細かい技術と神経使う作業内容は、大工さん本来の仕事とは思えませんでした。

「ファースの家」は、主要な断熱・気密工事を特別な施工研修と責任施工契約をした専門業者が行い、大工さんには本来の仕事に力を発揮して頂きます。

「お約束した性能をしっかりと現場で実現する。」当たり前なことなのですが、現状ではまだまだ課題が多いように感じます。

◇高性能住宅の住まい方◇

施工者のしっかりした施工で断熱性能の高い住宅に住むことができたとして、次に課題となるのは「ユーザーの住まい方」となります。

一定以上の性能を満たした住宅であれば、それ相応の冷暖房機を選択し、それを正しい場所に取り付け、正しく使う(住まう)ことが必要です。

一時期インターネット上では、「エアコンは付けっぱなしが安い?」との論争が起きていました。結論は、「家の断熱・気密・日射遮熱の性能が高ければ、(電源を入れたままの自動稼働)付けっぱなしが安いと云うことになります。

ファース工法は、すでに何年も前からエアコン冷暖房の自動稼働を確実に実践する仕組みづくりをシステム化して省エネ効果を上げてきました。

◇光熱費が安く快適◇

現在は、各電力会社のホームページで自宅の光熱費と、自宅と同じ契約を結んでいる住宅の光熱費を比較できるサービスが提供されています。

ファースグループでは、このサービス活用を推奨しており、電気量が平均を超えるようなことがあればアドバイスをを行うサポートを実施しています。

光熱費を膨大に使っての快適性を保持することや、カラダに我慢させての省エネでは健康上でも大きな問題が生じます。

快適で省エネな住宅であることを知るためにも、各電力会社の光熱費比較サービス活用を推奨いたします。(本社・福地 智)

幸太の知恵袋

おろし金を上手に使う

大根おろしや、ワサビをおろす時、おろし金を使うでしょ。すり終わった時、おろし金の方に大根なんかがたくさん付いたままで、それが取れなくて、随分ムダにできてしまっていないかい。それに、おろし金の後始末も、うまくいかないよねえ。いい方法があるよ。おろし金を使う前にね、すりおろす部分にね、ラップを敷いておくんだよ。ラップの上から、大根や、ワサビをすってごらん。すり終わったら、敷いておいたラップをおろし金から取りはずすんだよ。そうするとね、大根おろしやわさびが綺麗に取れるし、おろし金の掃除も簡単にできるね。